

平成22年度 【 学園研究費助成金 】 研究成果報告書

学部名 看護学部 看護学科

フリガナ アライ ヨシコ
氏名 荒井 淑子

研究期間 平成22年度

研究課題名 介護保険施設におけるグリーフケアをふまえた看取りケアの現状と課題
—介護保険施設で働く看護師の意識調査から—

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	荒井淑子	看護学部	准教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等

日本のグリーフケアの研究は、対象者としては子供を亡くした両親であったり、自殺や犯罪被害で身内を失った家族であったり、難病の患者を看取った家族であったりする場合が多く、高齢者を看取った家族や知人を対象としている研究は少ない。高齢者の終末期を迎える場所としては、介護保険法施行や世帯構造による高齢者の生活環境や介護力の影響により、病院から在宅や介護保険施設に移行しつつある。この研究で、介護保険施設でのグリーフケアをどのように考えていったらよいかの示唆を得るため、今回の研究では、

- 1 介護保険施設の看護師はどのような現状からグリーフケアの必要性を考えているのかを明らかにする。
- 2 介護保険施設でのグリーフケアを実践するために必要な環境や資源は何かを明らかにする。

2. 研究方法等

1. G 県下で研究依頼に承諾を得られた介護保険施設（介護保険施設としては、介護老人保健施設と介護老人福祉施設を対象として調査を実施する）の看護師を対象に半構造的面接調査を行う。
2. インタビューガイドを参考に半構成的面接を実施する。話は許可を得て、録音やメモなどで残し事実を忠実に扱う。研究データの分析方法としては、基本属性を確認し、会話によって得られた文章によるデータは内容分析を行う。
3. 公表は、学会発表終了後、論文の形にまとめて投稿する。

3. 研究成果の概要

前回収集した量的データからの結果は、グリーフケアを実施する時期としては、利用者の終末期からの実施の方がよいとの回答が多かった。そのことをふまえ、今回は、承諾を得られた1施設の看護職からの、半構造的面接によるインタビューの実施を終了した。グリーフケア（看取り）の実施に至った経緯、困難を感じた場面、困難を乗り越えるために工夫したこと、福祉施設での看取り（グリーフケア）の必要性、グリーフケア（看取り）のを実施する際の今後の課題など、ある程度のテーマをこちらから提供はしたが、なるべく自由に語ってもらうように実施した。インタビューは、録音の許可を得られ、ICレコーダーに録音した。現在逐語録を作成しながら、まず、インタビューで得られた看護職からの意見を参考に、直接観察できない看護職者の感情、思想、意図、過去の行動などを見つけ出すことを目的において、分析の進行中である。途中経過中ではあるが「経験・行動」、「意見・価値観」、「気持ち・感情」「知識」「背景」などのレベルでの内容が抽出されつつある。これらから、福祉施設での看取り（グリーフケア）の実施に関しての看護職者の意識としてどのようなテーマが産出されるのかを、現象学的アプローチで分析していく予定である。そのためには、もう数か所の施設の看護職者のインタビューデータを参考にする予定である。

4. キーワード

①看取り	②グリーフケア	③看護師の意識	④
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望（公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。）

研究成果の公表は、学会名や掲載誌など具体的には決定してはいないが、平成23年度に中に学会発表、論文投稿に踏み切る予定である。

これらの成果を基盤に、科学研究費の申請を行う。